

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	Haccii 8 0 8		
○保護者評価実施期間	令和8年1月19日		令和8年2月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	令和8年1月19日		令和8年1月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケア児への対応力	看護師が多く在籍しており、定期的なミーティングによって情報共有とケア方法の見直しを随時行っています。個による対応とチームとしての対応を、状況によって使い分けることでより安全度の高い場所となるよう努めています。	外部機関での研修の積極的な参加や事例共有を通じて専門性の向上を図ります。また、主治医や訪問看護事業所、学校等の関係機関との連携をより一層強化し、緊急時を含めた支援体制の確認と見直しを継続します。
2	チーム体制での療育プログラムの実施	児発管と児童指導員が中心となり、個別性に合わせた療育を実施しています。活動内容について、事前に周知を図ることで目的・意図を意識したうえでの支援に繋がっています。	療育や領域に合わせた支援等についての研修を進めることや、利用者の支援についての情報共有などのミーティングの頻度を挙げることで支援の質を向上させていきます。
3	職員のフットワークの軽さ	各職員が柔軟な発想を持ち、「やってみよう」と思ったことがこれまで実現に繋がっています。一人の発想の実現のために、皆でアイデアをさらに出し合える環境となっています。	職員間でのミーティングの頻度を上げ、意見の集約できる機会を多く持ちます。また、保護者アンケートを実施し、保護者の求めることに対して議論し、実現してニーズに応える姿勢を構築します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎・利用時間のニーズについて	以前よりの課題ですが、放課後等デイサービスとの利用時間の都合から、帰りの送迎の依頼や利用時間の延長を受けることが難しく、ご希望通りにいかないことがあることを心苦しく思っています。	職員配置の見直しで延長を受けたり、送迎の組み方を検討し放デイ利用者との乗り合わせを頻度を上げるなどしていきます。
2	地域の保育園など、他のこどもとの交流	児童発達支援の利用者が増えたことで以前より施設内で他者との交流の場面は増えましたが、依然として外部への働きかけができていないのが現状です。	市町村の担当部署との連携を図り、イベント的な交流から定期的なものへとステップアップするよう計画していきます。
3			